

まちづくり支援の可能性～熊本県宇城市三角町を題材に～

熊本大学工学部 学生会員 ○鶴丸 悠一 熊本大学工学部 正会員 星野 裕司
熊本大学工学部 正会員 小林 一郎

1. はじめに

現在、日本では地域の実情に応じた、住民の主体的な参加による個性あるまちづくりが求められている。このようなまちづくりを実現するために、全国各地でも様々な実践的な取り組みが行なわれ、人材教育論、まちづくり支援システムなどの研究が数多くなされている。これら研究の多くは、住民の主体的な参加のための支援を目的としているが、実際のまちづくりでは、未だ多くの困難を伴っている。

そこで著者らは、支援のあり方に着目した。「まちづくり支援」を住民の自発的なまちづくり活動を補佐することだと捉え、既往研究の「まちづくり支援」の概念図を図-1のように位置づけた。即ち、まちを「内側」と「外側」とに分けて考えることで、これまでのまちづくりの取り組み・支援研究が、まちの「内側」においてのみ着目され、「外側」からの視点が抜け落ちていると考えられた。

このような背景から、本研究では、まちの「外側」に焦点を当てる。ある主体がまちを「外側」から支援する事が、まちの「内側」の存在である住民に対して、十分にまちづくり支援となり得るかを明らかにすることを目的とした（図-2）。

2. 本研究の対象とその現状

(1) 本研究の対象

熊本県宇城市三角町は熊本県の中央部、宇土半島の先端に位置する総面積 48.31km²、人口 9,697 人の小さな町である。南北を不知火海、有明海に挟まれ、西にかかる天草五橋（1号橋）は天草への架け橋となっている。町は天然の良港である三角東港、三角西港を中心とする商業、観光地域と、なだらかな丘陵を利用した果樹、ハウス園芸主体の農業地域からなる。本研究では、三角東港（以下、三角港）周辺地域を中心に行なわれているまちづくりに焦点を当てる。

(2) 三角町の現状

三角町は、国道・フェリー・JR が集中し、古くから

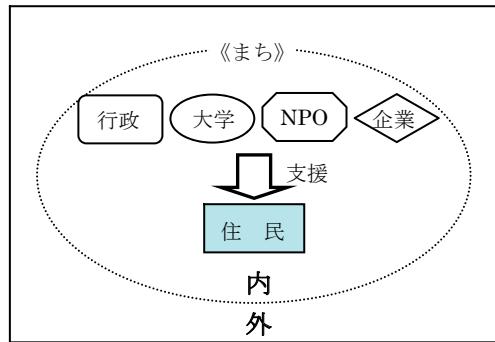


図-1 既往研究のまちづくり支援の概念

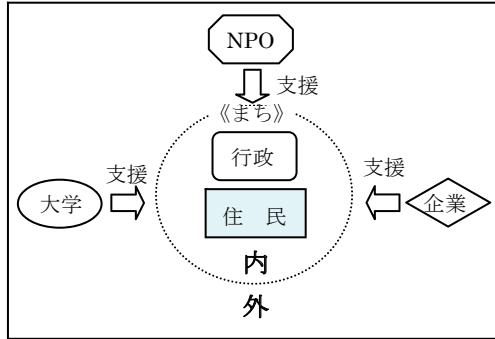


図-2 本研究のまちづくり支援の概念

天草への玄関口として栄えてきた。しかし、平成 18 年に三角島原フェリーの運航が廃止され、三角港は次第に港としての機能を失いつつある。このような背景から、三角町では現在、様々なまちづくりが取り組まれている。

3. 三角町のまちづくり

(1) まちづくりの変遷

三角町は、平成 17 年に不知火町、小川町、松橋町、豊野町と合併し宇城市となった。本研究では、まちづくりの変遷として、宇城市合併以降の三角町のまちづくりを取り上げることとした。

三角町では合併以降、図-3 に示すように様々な主体によるまちづくりが行なわれている。これらは主に、行政が民間企業に町の活性化を目的に業務委託したものや、大学による現場での実践的まちづくり教育、そして地元商工会による町おこしイベントなどである。これらを図-2 に示した、まちの「内側」と「外側」の概念により整理すると、まちの「外側」からの取り

名 称	主体	H. 17	H. 18	H. 19
商店街賑い 再生事業	官・民 学	11月～3月	4月～8月	
社会基盤 設計演習	学		4月～9月	
九州デザイン シャレット 2006	学			
三角町地域 活性化業務	官・民 商	7月～11月		
幻灯祭	商		11月～12月	
CLUB PYRAMID	民			7月～
幻灯彩	商			11月～12月

官：行政 民：民間企業 学：大学関係 商：地元商工会

図-3 三角町のまちづくりの変遷

組みであると考えられるのは、図-3より、大学が主体となり行われた「社会基盤設計演習」、「九州デザインシャレット2006」、そして民間企業により現在も行われている「CLUB PYRAMID」であった。本稿ではこれらの中から「九州デザインシャレット」、「CLUB PYRAMID」を取り上げ、考察を行うこととした。

(2) 活動の概要

九州デザインシャレットとは全国の土木、建築などを学ぶ学生、若手技術者30名を対象とした短期集中型の設計演習合宿である。図-4に示すように、KL2(九州の大学を中心とした学生グループ)、風景デザイン研究会により毎年九州各地で開催されている。平成18年には、三角町で開催され、「三角を元気にする港周辺のデザイン～20年後を考える～」をテーマに、専門家の指導のもと三角港周辺のデザイン演習が行われた。また期間最終日には、三角町内外から150人近い人々が訪れ、参加者たちの提案に耳を傾けた。このイベントは同年8月に三角一島原フェリーが廃止となった三角町において、これからまちづくりにおける「港」の重要性を再認識する場にもなった。

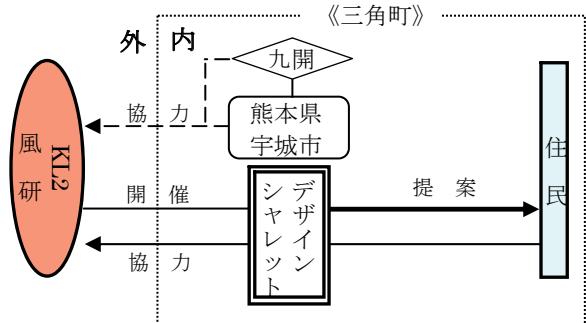


図-4 九州デザインシャレット

またCLUB PYRAMIDは、毎週土曜日の夜のみ運営されているクラブイベントである。日本全国からゲストDJを招き、現在も県内外問わず若者が訪れている。平成19年7月より三角港の海のピラミッド(フェリーターミナル)で、熊本市の民間企業であるスターライトの手により運営されている。

クラブ運営は、三角一島原フェリー廃止により、「空き家」状態にあった海のピラミッドを活用し、当初は、町の活性化策として、県や市、地元商工会も運営に協力的であった。しかし、次第に行政による財政支援もなくなり、また夜の営業という事で地元商工会の理解や協力も得られなくなり、現在のような単独の運営体制を余儀なくされた。

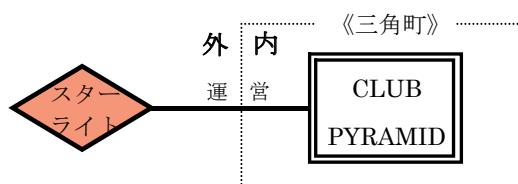


図-5 CLUB PYRAMID

4. 考察

図-4、図-5を比較すると、九州デザインシャレットとCLUB PYRAMIDは、両者ともまちの「外側」からの取り組みであるにも関わらず、行政、民間企業、住民の協力・非協力の態度が対照的である。しかし、これら二つの異なる取り組みは、それぞれ三角町に対して以下の二点においてまちづくり支援となり得る可能性があると考えられる。

ひとつは、九州デザインシャレット終了後、まちづくりに対して消極的な面もあった三角町の住民たちが、地元商工会が中心となって、幻灯祭を開催し多くの人を集めした。この事から、九州デザインシャレットは、住民のまちづくりに対するやる気を喚起させることができたと考えられる。

もうひとつは、CLUB PYRAMIDを表現の場とする県内外の若手アーティストたちの存在である。彼らにより三角町のCLUB PYRAMIDの認知度は次第に九州全体に広がりつつある。この事から、将来的に三角町に若者を呼び込むことも期待できる。

5. おわりに

考察についてはまだ不十分な点も多い。しかし、更なる考察を行うことで、これらが十分にまちづくり支援となり得るのか検証を行っていきたい。